

令和 3 年 1 月 20 日

兵庫県立大学環境人間学部

内田 勇人

『健康づくりと医療確保』

・心と体の健康づくり（健康意識の向上、食生活の改善、運動習慣の定着、低栄養・フレイル対策、ICT を活用した健康づくり等）

(1) 個人の健康を取り巻く背景

主体、生物学、物理・化学、生活習慣、社会・経済・心理の各要因

(2) アメリカ人の寿命の現状

(3) 粗食から飽食へ

(4) 小太りが良い

(5) ヘルスケア機器の進展

・認知症対策の推進（認知症の予防・早期発見、認知症医療体制の充実等）

(1) アルツハイマー型、レビー小体型

(2) 認知症の今後

・医療提供体制の充実（医療機関の機能分担・連携、在宅医療の充実等）

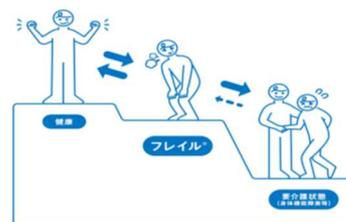
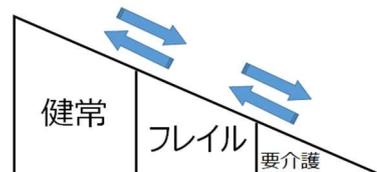
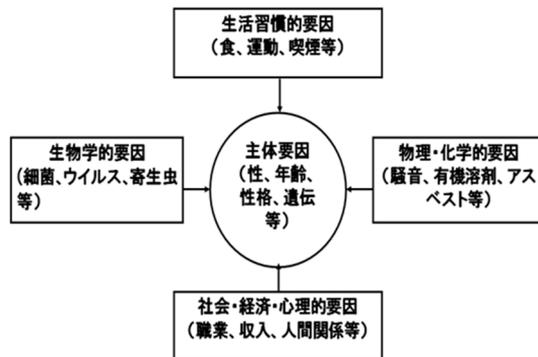
(1) 病床数は西高東低

(2) コロナが契機に

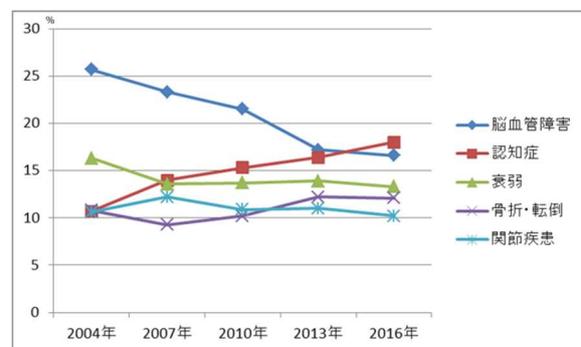
・医療・介護人材の確保（医療従事者、福祉・介護人材の養成・資質向上、医師の地域偏在・診療科偏在の解消、遠隔診療・介護ロボット等の活用等）

(1) 看護職の活用

(2) オンライン機器（テレビ電話・テレビ会議等）の活用



フレイルとは（「フレイル診療ガイド2018年版」日本老年医学会、国立長寿医療研究センター、2018より）



以上